

2018年度 事業報告

【海外事業】



18年度に初めて文具支援を実施したキリマンジャロ山麓ロレ村のロレ幼稚園の様子

概要

タンザニア・ボレボクラブはキリマンジャロ山麓の住民たちと協力し、同山における森林の一体管理・保全の体制および仕組みづくりを目指しています。

2018年度は、政府により解散を余儀なくされた住民組織キハコネに代わる新たな地域組織の立ち上げに全力を尽くしました。当初は国会議員との連携構築なども目指していましたが、政府による組織認可がされない中、様々な行動をとることへのリスクが懸念されたことから、こうした動きを一旦すべて止めて最優先で新組織の政府登録を目指しました。

政府登録を進めるにあたり、登録後の政府からの干渉を避けるため、すでに完成していた組織規約の全面的な見直しが必要とされ、年度前半はその作業にかかりきりとなりました。その後は県知事から設立承認を取り付けるのにこれも半年を費やすことになりました。当初2018年末までに新組織の政府認可までたどり着くべく進めていましたが、こうした状況から、認可は2019年度に持ち越しとなりました。

植林では大豪雨による隣国ケニアでのダム決壊などを受け、キリマンジャロ山麓にある大型貯水池の堰堤強化を目的とした植林を中心に、村落エリアでの植林に取り組みました。この植林も当初はキハコネが主導する計画でしたが、解散により従来通りカウンターパートのテアカが全面的に担う形で実施しました。

また、キリマンジャロ東南山麓テマ村で村人たちの悲願であった診療所の建設支援を実施、ほぼ完成させることができました。さらに東山麓のロレ村で改良カマドの重点設置、養蜂プロジェクトの強化、初となる幼稚園への教材および文具支援を実施しました。

1. 世界遺産キリマンジャロ山における国立公園の拡大にかかわる問題の解決および旧バッファゾーンにおける地域主体による新たな森林保全・管理の実現に向けた取り組み

(1) 地域連携体制の再確立

●掲げた課題：

地域の人々が再び力を合わせていくための新たな土台（地域組織）を整備し、その政府登録を目指す。新組織は容易に政府の干渉を受けないよう、これまでとは異なる体制のもとに立ち上げる。これは従来のキハコネが山麓の村々を代表する地域組織であったのに対し、新組織は広く県全体、更には複数 県を代表し得る地域組織として立ち上げることを意味しており、そのための陣容を整える。

●結 果：

キリマンジャロ山麓にあるモシ県の県議会議員を主要構成委員とした新組織（地域連携協議会）の立ち上げに取り組んだ。政府の干渉を避けるため、構成委員にはこのほか元司教、地域の識者などにも加わってもらい、地域を代表する幅広い陣容となるよう努めた。また法律面での組織の整合性を確保するため、組織規約の全面改定を行った。政府への組織登録にあたっては法律家と契約をし、活動面での助言および登録作業の実務を担ってもらった。この結果、2018 年度には県知事による組織承認まで完了することができた。ただし中央政府への組織登録および複数県にまたがる組織陣容の整備まではステップを進めることができず、2019 年度に持ち越しとなった。

(2) タンザニア国会での審議入りを目指す

●掲げた課題：

キリマンジャロ国立公園の境界を定めている官庁公示（Government Notices）を変更するためには、国会での改正決議が必要とされる。そこで国会での審議入りを目指し、国会の常設委員会である環境委員会に対して、国立公園の問題を提起する。また、国会議員に対して同問題を国会で取り上げるようロビーイングを行う。

●結 果：

国会環境委員会のナペ・ナウ工委員長と面会し、キリマンジャロ山での国立公園拡大に対する問題提起を行い前向きな対処への感触を得た。またモシ県選出の国会議員およびアルーシャ州選出の員と面会し、同様の問題提起を行うとともに、地域連携協議会の委員に加わってもらうよう要請した。彼らについても要請に対し前向きな反応を得ている。ただし後述(3)を含め、新組織未登録の状態ですらに前進させることへのリスクが懸念されたことから、国会環境委員会および国会議員双方に対するアプローチはここまでで一旦止めた。

(3) 大統領への直接面会の実現

●掲げた課題：

マグフリ大統領には 2017 年度末に国立公園拡大による問題を直訴するため、面会を求める書簡を提出しており、その実現を目指す。また、2018 年度中に同大統領がキリマンジャロ州を訪問する可能性が出てきており、その際には村の指導者、山麓住民が直接この問題を訴えられるよう、県議会議員と協力して準備を進める。

●結 果：

大統領府を 2 回訪れ、法務官と面会。国立公園問題について説明し大統領への面会を求めるも、州知事と話し合うべき事との回答であった。そこで面会の機会を事前情報のあった大統領のキリマンジャロ州訪問にかけたが、結局日程調整がつかず、サミア・ハッサン副大統領の訪問となった。そこで副大統領主催の会議にて、新組織で委員に就任予定の県議会議員より国立公園問題について問題提起することにしたが、会議の席上副大統領より「個人的関心で森林に関し政治的な動きをしている者がいる」との警告が出され（具体的対象は明示されず）、危険は冒せないとの判断から見送った。こうしたことから、その後政治に絡む動きは停止し、活動の法的根拠を得るため新組織登録に最優先で取り組むこととした。

(4) モシ県議会及びキリマンジャロ州全県評議会の議事録入手

●掲げた課題：

国立公園拡大にともなう人権、生活権の侵害に対し、これに抗議する山麓住民の訴えを政府（州・県）、国立公園公社は圧力によって封じ、その存在自体を認めようとしていない。この状況を変えていくためには人権、生活権侵害の事実を認定し、問題解決を迫る第三者の存在と裏付けが極めて重要となる。2018年度は、昨年度組織登録抹消措置により入手に動けなかったモシ県議会による HMFS 返還要請決議（2015年度）の入手を再度図ることとする。入手は地域として行わず、県議会議員の要請による形を取る。また昨年、国立公園の問題が提起されたキリマンジャロ州全県評議会の議事録についても入手を試みる。2018年度は政府人権委員会も国立公園公社の人権侵害行為を事実認定するとみられ、これらによりこれ以上の住民無視の姿勢に容易に繋がられないようにしていく。

●結果：

モシ県議会による HMFS 返還要請決議文書については、同議会で設置された国立公園公社の暴行事実を調査する特別委員会による最終調査レポート（暴行事実を認定）を入手した。一方、キリマンジャロ州全県評議会の議事録は政治的リスクが大きく、入手を断念した。また政府人権委員会は 2017 度以来空席となっている長官が未だ任命されず、調査レポートが発行できないまま棚上げとなっている。新長官の任命を待つしかない状況。

2. 養蜂プロジェクト

●掲げた課題：

養蜂技術向上のため、一昨年養蜂プロジェクトを導入したキリマンジャロ東山麓のロレ村で、映像資料を用いたレクチャーを実施する。また必要な場合、昨年度技術研修で派遣したルシヨトの Mwamboa から講師を招請し追加指導の機会を設ける。

●結果：

ロレ村にて、養蜂の導入および季節毎のミツバチ飼育に関するビデオレクチャーを実施。Mwamboa による追加指導は講師を呼ぶのではなく、ルシヨトを直接訪問する形で実施。これらの結果、ロレ村に設置した改良養蜂箱 7 箱すべてでミツバチの営巣を実現。年度内にハチミツの初収穫も期待したが、これは 2019 年度に持ち越しとなった。

3. 改良カマド普及

●掲げた課題：

キリマンジャロ南山麓のシンガ村もしくは東山麓のロレ村でセメントプラスターリングタイプ5基を設置する。またロレ村では、海外から派遣されるボランティアとの協業体制（カマド作りボランティア）が構築できるかを検討する。

●結果：

シンガ村で 2 基、ロレ村で 10 基、計 12 基を新設。両村とも改良カマドに対する評価は極めて高く、設置要望が相次いでいる。ロレ村での海外ボランティアとの協業については、地元の改良カマド職人の確実な技術定着が優先との判断から見送った。

シンガ村に設置され、使用中の改良カマド →



4. 裁縫教室

●掲げた課題：

テアカと協議のうえ、以下より優先度の高いものへの支援を実施する。

- (1) 昨年度実施を見送った裁縫教室への大型黒板の設置。現在使っている黒板が小さく、授業に不便をきたしているため。
- (2) 練習用の布の装備。通常は生徒が各自で用意することになっているが、各家庭ではポロ切れまで使っているのが現状で、練習用の布を十分に用意できない生徒がいる。これが技術修得の妨げとならないように支援する。また、ミシン等の機材の消耗品補充を行う。

●結果：

裁縫教室へのミシン等機材の消耗品補充および教師から要望を受けた製図機材、政府訓練校のテキスト調達を支援した。このため生徒の練習用布の支援はできなかった。

5. 図書・文具支援

●掲げた課題：

キリマンジャロ山麓の小学校1校に対し、全校生徒への筆記用具（ノート、ボールペン、鉛筆）の支援を実施する。支援先の小学校の選定は、テアカないし 2018 年度に設立を目指す地域連携協議会と協議のうえ決定することとする。

●結果：

テアカおよび地域連携協議会（仮）委員と協議し、小学校ではなく、モシ県のキリマンジャロ山麓にある幼稚園 2カ所（キポリロ二、ロレ村）に教師用の机、教材（地図）、文房具（ノート、筆記用具）の支援を行った。

6. 診療所建設

●結果：

当初計画になかったが、寄付による建設資金を得られたことから、テマ村で悲願とされていた新診療所（Mother and Child Health Centre: MCH）建設への支援を実施した。政府による見積もり漏れ、村での自助努力分の資金調達がはかどらないなど、問題も発生したが、年度末までにほぼ完成することができた。現在汚水処理のための浸透槽の建設および診療所への電線の引き込みが残っている。



ほぼ完成したテマ村の新診療所

【国内事業】

1. ニュースレター

●掲げた課題：

事務局のマンパワー不足のため、ニュースレターの発行が滞る状態が続いている。従来分量を確保するより発行頻度を上げ、タイムリーに現地での取り組み状況、情報をお届けすることの方が重要と考えられる。従って今年度より分量を減らし、年4回以上の発行頻度を確保できるようにする。

●結果：

2019年度に予定していた事務局の移転が2018年度末に前倒しとなり、このためニュースレターの作成に着手できず、発行回数は3回にとどまった。

2. イベント出展

●掲げた課題：

- (1) さくら祭り： 国際協力関係のイベントとは異なる地域のお祭り。2018年度は久しぶりにコーヒー販売で参加し、昨年輸入された「エデン・キリマンジャロコーヒー」の販売を行う。
- (2) エコライフ・フェア： 昨年初めて出展したイベント。今年度も継続出展する。前回はキリマンジャロ山の国立公園拡大による問題を中心にした展示説明を行ったが、今回は村の子どもたちの描いた絵の展示をメインに出展する。手工芸品チームとの合同出展。
- (3) グローバルフェスタ： 2018年度は現地調査と重なってしまうことから、手工芸品チームとしての参加で計画する。

●結果：

計画通りすべてのイベントに出展した。「さくら祭り」ではロレ村産の産直キリマンジャロコーヒーをイベント会場でハンドドリップして販売したが、ドリップが追いつかないほどの人気で完売した。一方、「エコライフフェア」については NGO 関連団体の会場レイアウトの問題もあり、ブース訪問者数は期待したほど多くなかった。ただし展示していたキリマンジャロ山の国立公園問題は関心をひき、熱心に説明を聞いていただけた。「グローバルフェスタ」は台風の影響を受けるあいにくの天気となり、二日目中止となった。来場者も少なく、残念な結果となった。

3. ぼれぼれカフェ/メンバー懇親会の開催

●掲げた課題：

当会の活動に気軽に触れ、参加の機会としていただくため開催している茶話会形式の「ぼれぼれカフェ」を2018年度も継続開催する。アフリカやタンザニア、当会の活動に関わりのあることをテーマにし、3～4回の開催を予定。またこれとは別に、1～2回のメンバー懇親会を開催する。

●結果：

「ぼれぼれカフェ」は総会の第2部（テーマ「南半球の星空と巨大恒星」）および手工芸品チームのミーティング後（テーマ「ボレボレアルバイトのロレ村訪問記」）という形で2回開催。興味深く聞いていただいたが、当会に新たに関心を持っていただける方を増やす場としていくという点では目的を果たすことができなかった。

メンバー懇親会はゴールデンウィークに千葉県富浦のポポテ山荘（2泊3日）および新年会（新宿）を開催した。

4. ホームページのリニューアル

●掲げた課題：

- (1) 活動年数の経過とともに現在のホームページが煩雑さを増し、見づらくなってきています。そこで「シンプル」、「分かりやすい構造」を基本コンセプトに、新たなホームページに完全リニューアルを行う。
- (2) 現在運用しているフェイスブック、ツイッターについて、自動投稿などを取り入れ、発信頻度と訴求効果の向上を目指す。
- (3) SNS として新たにインスタグラムの活用を開始する。

●結果：

- (1) ホームページはサイトおよび各ページの構築はほぼ完了し、データの移管作業を徐々に進めている。ただし細部の修正がまだ必要なこと、データ移管に割けるマンパワー不足から作業が大幅に遅延しており、リニューアルには至らなかった。
- (2) ツイッターの自動投稿は導入を実施したが、フェイスブックは他団体なども参考にし、何か特別なトピックがある場合の繰り返し投稿のみに限定することにし、自動投稿の導入は見送った。
- (3) インスタグラムはキリマンジャロ山の村や人々、活動の様子などを柔らかく伝えるコンセプトで運用を開始した → <https://www.instagram.com/tanzaniapole2club/>

5. 新事務所（事務局）への移転／メールアドレス

●結果：

当初 2019 年度の移転を予定していたが、2018 年度に前倒し実施した（移転は 3 月、事務局としての稼働開始は新年度の 2019 年 4 月）。新事務所の住所、連絡先は以下の通り。また、メールアドレスも 2018 年度に以下に変更となった。

●タンザニア・ポレポレクラブ事務所

〒 182-0005 東京都調布市東つつじヶ丘 2-39-11 アザレアヒルズ 203

Tel/Fax : 03-3300-7234

Email : pole2club@gmail.com

最寄駅： 京王線「つつじヶ丘」、徒歩 7 分





タンザニア・ポレポレクラブ

(事務所) 〒182-0005 東京都調布東つつじヶ丘 2-39-11 アザレアヒルズ 203
(Tel/Fax) 03-3300-7234、(郵便振込口座) 00150-7-77254
(E-mail) pole2club@gmail.com、(HP) <http://polepoleclub.jp/>
(本 部) 〒107-0062 東京都港区南青山 6-1-32-103
